

春日井ロータリークラブ

クラブテーマ

“未来に向けて 帆を上げよう！”

会 長：川瀬治通 事務局：春日井市鳥居松町 5-45
副 会 長：和田了司 TEL：0568-81-8498 FAX:0568-82-0265
幹 事：古屋義夫 E-mail：ksgj-rc@gaea.ocn.ne.jp
会報委員長：青山博徳 HP：<http://www.kasugai-rc.jp>

例会場：ホテルプラザ勝川 例会日：金曜日 12:30-13:30



本日のプログラム

- | | | |
|---------------|-----------|--------|
| | 司会 | 会場委員会 |
| ・開会宣言 | 50周年実行委員長 | 社本 太郎君 |
| ・点 鐘 | 会長 | 川瀬 治通君 |
| ・各国国歌演奏 | | |
| ・ROTARY SONG | 「奉仕の理想」 | |
| ・会長挨拶 | 会長 | 川瀬 治通君 |
| ・来賓紹介 | 幹事 | 古屋 義夫君 |
| ・物故会員に黙禱 | 幹事 | 古屋 義夫君 |
| ・記念事業目録と寄付金贈呈 | 会長 | 川瀬 治通君 |
| ・来賓祝辞 | | |
| ・祝電披露 | | |
| ・閉会宣言 | 副会長 | 和田 了司君 |
| ・点 鐘 | 会長 | 川瀬 治通君 |

先週の記録

会長挨拶

会長 川瀬 治通君

「ロータリーの友」

ロータリークラブに入会して、まず覚えなければならぬのは、会員の名前と顔。そして、その人たちがどのような活動をしているのか、ということ。もちろん、自分に割り当てられた委員会の仕事についても覚えなければなりません。こういったことについては、例会出席が一番役に立つと思います。

もう一つ忘れてほしくないのが「ロータリーの友」です。「ロータリーの友」には、日本国内のたくさんのクラブの活動、そして海外のクラブや国際ロータリーの情報も掲載されています。最初は少しとつきにくいかもしれませんが、毎月興味のある所だけでも読んでみてください。ロータリーに対する考え方、目から鱗の活動、驚くような世界のクラブなど多岐にわたる記事が掲載されており、きっと今後のロータリー活動のヒントやアイデアが得られると思います。また、読んでい

2019年4月6日(土)2400回(4月第1例会)

うちに自分が世界中に広がるネットワークの一員であることを知ることができます。

ロータリーの雑誌は、1911年に創刊された、ポールハリスのエッセイが掲載された「ザ・ナショナル・ロータリアン」が始まりです。

日本では、「ロータリーの友」が1953年に創刊されました。名前は「主婦の友」からヒントを得たそうです。当初はすべて横組みでしたが、「俳壇・歌壇」など横組みでは入れられないコーナーが登場したため、巻末に縦組みのページを掲載するようになりました。その後、次第に縦組みのページが増え、1972年からは反対側にも表紙を付けた現在の形になりました。

世界中のロータリアンが共有すべき国際ロータリーからの情報や指定記事など、国際ロータリーの地域雑誌という意味合いの記事を先に読みたいならば横組みから、日本のロータリアンのコミュニケーションの場としての記事を先に読みたいならば縦組みから読むのがおすすめです。

「ロータリーの友」前編集長の二神典子さんの連載コーナーが1-2年前まで掲載されていました。最初は新会員向けの「はじめの一歩」、次にロータリーの最新情報をピックアップした「Rotaryいま…」、次が再び新会員向けの「ようこそRotary」でした。このコラムはとても分かりやすく参考になり、再入会させていただいた時にロータリーの現状を知るのに大変役に立ちました。残念ながら、二神さんが編集長を退任されたため、そのコーナーはなくなってしまいましたが、「ロータリーの友」のHPで読むことができます。最近では、「ロータリー・アット・ワーク」の後に「Annotation」というコーナーが作られており、ロータリー用語の解説が載っています。ぜひ目を

母子の健康月間

	4月12日(金)	4月19日(金)	4月26日(金)	5月3日(金)
例会予定	第10回理事役員会 11:15～ 祝福 卓話 日本自分史センター 芳賀 倫子様	卓話 ㈱ハートフルコミュニケーションズ 谷口 敏夫様	植樹例会 ロータリーの森	休会・祝日

通してください。

さて、「ロータリーの友」にはたくさんの投稿欄があります。最近では、亡くなった河村君の思いが通じ、一昨年6月号に「春日井ロータリー旗・スポーツ少年団サッカー大会」のことが「ロータリー・アット・ワーク」に載りました。昨年11月の「多文化共生フェスティバル」の記事も投稿してあります。記事として掲載されれば、クラブのアピールにもなりますし、活性化にもつながるので、各委員長は何か活動を行ったら投稿にチャレンジをしてみましよう。

幹事所感

幹事 古屋 義夫君

先日、チャーターメンバーである早川八郎さんとお話をさせていただき聞いた事があります。それはロータリークラブの基本である出席と友情の関係についてです。そして出席に関連しロータリークラブで使用するメイクアップはどうか化粧する事ではないと気が付きました。じゃあ何なんだ… こうお叱りを受けそうですがちょっと説明をさせていただきます。まず”化粧”といいますが私のイメージですが何かを覆い被して”隠す”イメージがあり”公明正大”なロータリークラブとしては何やらイメージ的に腑に落ちない物がありました。

日本でもそうですがロータリークラブ発祥の地であるアメリカでも試験の成績がわるいと再試験を受けなければなりません。これをアメリカではMake-up exam. といいます。

そして恐らくこのシステムこそがロータリークラブの運営方法として採り入れられたのではないのでしょうか？

そうだとすればロータリークラブ用語の”メイクアップは”隠している”のではなくて”欠席の埋め合わせ”こそその解釈が適当なのではないのかなと。

そしてチャーターメンバーの早川さんや他の先輩方に教えて戴いたようにロータリークラブの基本は出席であり出席した事により友人が出来さらに親睦も深まり友情が育まれるのだと言う事が今更ながらに理解できました。

そしてロータリークラブを皆さんと共に努力しロータリアンが楽しくて心が安まるような場所にしなければならぬと言う事をロータリークラブに加入させて頂き6年目の今更ながらですが再確認をさせていただきました。

◎例会変更のお知らせ

名古屋守山	4月17日(水) 夜間例会
R C	台北北薪 RC 合同例会の為

岩倉	4月23日(火) → 4月25日(木) 18:00~
R C	合同例会の為 曼陀羅寺
江南	4月25日(木) 18:00~
R C	合同例会の為 曼陀羅寺

出席報告

委員長 小柳出 和文君

会員 52名	欠席 21名	出席率 59.6%
先々週の修正出席	欠席 2名	出席率 96.2%

ニコボックス報告

委員長 藤川 誠二君

- 稲垣直樹先生をお迎えできた喜びで
川瀬 治通君 早川 八郎君
- 妻の誕生日です。お花をありがとうございます。
加藤久仁明君
- 周年ソングリーダー特訓中です。 青山 博徳君
- 我が家の桜もほころび始めました。 足立 治夫君
- 大府大和共栄保育園が4月1日より開園です。
小川 長君
- 4月1日より新しい弁護士が加わります。事務所名も「市川・藤川法律事務所」となります。どうぞ、よろしくお願ひします。 藤川 誠二君
- 稲垣先生の卓話を楽しみにしております。
- 稲垣 勝彦君 大原 泰昭君 岡田 義邦君
- 加藤 茂君 加藤 宗生君 北 健司君
- 貴田 永克君 近藤 太門君 社本 太郎君
- 下田 育雄君 朽本 正樹君 内藤 修久君
- 中川 健君 長曾 篤志君 成瀬 浩康君
- 西尾 隆吏君 野浪 正毅君 速水 敬志君
- 場々大刀雄君 古屋 義夫君 三上 努君
- 山田 治君 和田 了司君
- ご協力ありがとうございます。

ニコボックス委員会

卓話 京都大学名誉教授

稲垣 直樹様

「格差社会」の逆説的な恩恵

春日井ロータリークラブは本年度で創立 50 周年を迎えられるとのこと、心からお祝い申し上げます。そのようなときに、創立5年目の1974年にロータリー財団留学生として春日井ロータリークラブのお世話になった私に卓話をとのお話をいただき、誠に名誉なことと存じます。

私は1974-75年度のロータリー財団国際親善奨学生として、フランスのアミアン大学修士課程に1974年10月から翌年6月まで留学させていただきました。その応募から選考、試験に至るまで、当時の会長、幹事でいらっしゃった早川八郎様をはじめ、春日井ロータリークラブの皆さま方、クラブ事務所の皆さま方、地区のガバナーおよびガバナー事務所の皆さま方には多大のご尽力をいただきました。改めて、厚く御礼申し上げる所です。この留学制度は受入ロータリークラブにマンツーマン

ンの受入世話人「顧問ロータリアン」を指定してくださるものでして、「顧問ロータリアン」をはじめアミアン・ロータリークラブの皆さま方には大変お世話になりました。

日本から手紙のやりとりをしていた段階では、学生寮のパンフレットをお送りいただいたりしておりましたが、いざ、3ヶ月早く7月中旬に渡仏し、アミアンに参りますと、「顧問ロータリアン」の方の城（シャトー）に25畳ほどのお部屋をいただき、ご厄介になることになりました。当時、アミアンにおいては、私のようなロータリー財団の留学生は珍しいどころか、前例もなく、これから先もまずないだろうというくらい存在でした。アミアンの町自体において、日本人は私一人だけでありまして、le Japonais と定冠詞付きの日本人と呼ばれて、大事にしてもらいました。学業は疎かにはしませんでした（学年末の試験ではフランス人の大学院生のみクラスでおこがましくも最優秀の成績でした）が、とにかく、よく学びよく遊ばせてもらいました。

「顧問ロータリアン」の方の城に専用の部屋を確保していただいたまま、アミアン・ロータリークラブの他のメンバーから次々にお誘いを受けて、各家庭に2、3ヶ月ずつ滞在させていただきました。アミアンの属する地区はフランス北西部のピカルディー地方とノルマンディー地方でして、この地区の5、6都市のロータリークラブからお誘いを受けて、早川様にお送り願った春日井ロータリークラブをはじめ春日井市関連、そして、日本文化についてのたくさんの方の話を携えて講演に出かけました。講演のあと、何人かの受入責任者の方の家庭にお招きを受けて、1週間から10日ほど滞在したりもしました。広大な城ないし館の持ち主も何人もおられ、そのほかの方々も大邸宅を所有しておられまして、圧倒的な富裕層ないし超富裕層でした。

ご承知のように、フランスは日本では想像できないくらい、甚だしい格差社会です。それは、私見によれば、キリスト教の人間観が背景にあります。例えば、ある人が数学がよくできるとすると、Il est doué pour les mathématiques. 「数学の才能を与えられている」と言います。doué は douer の過去分詞で Il est doué は受動態になっています。douer はラテン語の dotare 「与える」から来ています。人は生まれるときに、神からそれぞれ異なる能力（名詞では don 「贈り物」と言います）を贈り物として与えられます。ある能力を発揮するのは、その結果であり、決して、努力したからなどとは言われません。英語でも似たような発想をするようで、He has a gift for mathematics. と言い、能力は神から与えられたギフト、贈り物と考えられます。商才、経営能力も神から与えられたものですので、それをたまたま与えられて生まれた人間が社会において成功しても、誰しも当然と考えます。最近ではカルロス・ゴーンとい

う人の年収が10億円などと物議を醸しておりますが、フランスでは企業のトップと一般の従業員との給与格差が数十倍に上ることも普通です。平等とは「機会の平等」で、それぞれが神から与えられた異なる能力を発揮する機会が平等であることが求められます。日本では、最近、格差社会が問題になっていますが、基本的には「結果の平等」が尊重されるのです（かつて、公立の小中学校で、生徒全員が平等であるべきだとして、クラスの生徒全員に「5」の成績を付けた教師がいたと山本七平の著作にあります）。

フランスではすでに19世紀後半において、人口の10%が国全体の資産の90%を所有しておりました。イギリスに遅れること50年、1820年代から30年代にかけて、フランスでは産業革命が起こります。アミアンはほんの一例ですが、フランスのロータリークラブ員のほとんどが4、5代前に資産形成をしており、それを受け継いで、発展させておられます。つい数年前に日本語訳もベストセラーになった本にトマ・ピケティ著『21世紀の資本論』があります。この本が提示する基本的な公式は人類史上常に $r > g$ だということです。r は資産（資本）の増加率で、g は国内総生産の増加率。つまり、資産が増える率は働いて収入を得る、その収入が増える率よりも常に大きいというものです。戦争などの非常事態によって崩れる以外は、歴史的にこの公式が正しいことを膨大な歴史資料によって証明したのがピケティの功績とされています。

というわけで、フランスにおいて、アミアンでただ一人の日本人留学生として、アミアンおよび地区のロータリークラブ員の方々に珍しがられながら、こうした「格差社会」の恩恵に思う存分浴しました。間違いなく、一生でいちばん居住環境と食事環境に恵まれ、かつ勉強以外はすべて楽しみつくした10ヶ月を過ごさせていただいたわけですが、このような並はずれた恩恵に浴させていただいたお陰で、そのあと、博士課程において、フランス政府給費留学生として、パリで3年間を過ごしたときも、パリに着いた翌日から国立図書館に詰めて、朝から晩まで文献資料調査に当たるなど、勉強や、その延長上の研究以外に興味を持てなくなってしまうました。それがそのまま続いて一昨年、定年を迎え、名誉教授となりました。

京都大学の大学院で通算30人ないし40人の大学院生の個別指導に当たりましたが、院生たちにロータリー財団国際親善奨学生試験の受験を勧め（大学の所在地や現住所以外に本籍地でも受験でき、かつ、各地区はそれぞれ直接国際ロータリークラブの本部と結びついていますので、私の推薦状で毎年数名が受験しても問題にはなりませんでしたが）、通算20名ほどがこのロータリー財団の奨学金でフランスに留学をさせていただきました。ただ、その後、アミア

ンでもロータリー財団の留学生は珍しくなくなり、私が受けたような厚遇を受けることはなくなったと聞きました。

春日井ロータリークラブのお世話で、1974-75年度のロータリー財団国際親善奨学生にさせていただいたお陰で、私自身、その後、研究生活に没頭できましたし、私の教え子数十人も有意義な留学生活を送らせていただくことができました。改めて、心から感謝申しあげます。



会長挨拶 川瀬 治通君



会長、稲垣先生、当時の幹事早川君と記念撮影



卓話 京都大学名誉教授 稲垣 直樹様



幹事報告 古屋 義夫君

